

642. 一階常微分方程式ノ特異點ニ就イテ, XIII

福原 満洲 雄 (九大)

1. 今後必要ナ事柄ヲ繰返シテ述ベテ置ク。

$$(1) \quad x \frac{dy}{dx} = y \sum_{j,k} a_{j,k} x^j y^k$$

$$(a_{0,0} = \dots = a_{0,n-1} = 0, a_{0,n} \neq 0)$$

ノ形式的ノ解ヲ求メル爲メ

$$(2) \quad y = z \sum_{j,k} p_{j,k} x^j z^k \quad (p_{0,0} = 1)$$

ト置キ, $p_{j,k}$ ヲ適當ニキメレバ z ニ關スル方程式ハ

$$(3) \quad x \frac{dz}{dx} = a z^{n+1} + a' z^{2n+1}$$

トナル。依ツテ (3)、一般解ヲ (2)ニ入レルコトニヨリ (1)ノ形式的ノ解ヲ得ル。 (3)ノ一般解ハ $a' \neq 0$ ナラバ

$$(4) \quad z = \left(\frac{a'}{a} \alpha \left(-\frac{na^2}{a'} (\log x + C) \right) \right)^{-\frac{1}{n}}$$

ト書ケル。コゝニ $w = \alpha(\tau)$ ハ $w(0) = 0$ ヲ満足スル。

$$(5) \quad \frac{dw}{d\tau} = 1 + w^{-1}$$

ノ解ヲアツテ, τ^{-1} , $\tau^{-1} \log \tau$ が十分 = 小サイ時

$$(6) \quad o(\tau) = \tau (1 + \tau^{-1} \log \tau + \dots)$$

ナル形 = τ^{-1} , $\tau^{-1} \log \tau$ ノ収斂ナ冪級数 = 展開サレル。

(4) ノ右辺ハ $o(\tau)$ が既ニ多價函数ナル上 = $\log x$ がハイツテ居テ煩ハシイカラ $t = \log x$ ノ変数 = トルコトトスル。(1)ハ

$$(1') \quad \frac{dy}{dt} = y \sum_{j,k} e^{jt} y^k$$

トナリ, コノ形式的ノ解ハ

$$(2') \quad y = \sum_{j,k} p_{jk} e^{jt} y^k$$

$$(4') \quad z = \left(\frac{a'}{a} o\left(-\frac{na^2}{a'}(t+C)\right) \right)^{-\frac{1}{n}}$$

= 依ツテ與ヘラレル。

$$(7) \quad \tau = -\frac{na^2}{a'}(t+C)$$

ト置クコト = スレバ展開式 (6) ハ $(t+C)^{-1}$, $(t+C)^{-1} \log(t+C)$ ノ十分 = 小サイ時 = 使ヘル。

2. 問題ハ (1) ノ一般解ガ漸近的 = (2) ナル形 = 展開サレルコトヲ示ス = アルガ, ソノ意味ヲ明確 = シナケレバナラナイ, 勝手ナ但シキマツタ C ノ値 = 對シテ或ル條件 (コレガドンナモノナルカハ問題ヲ解イテ行ケバ自然 = 分ツテ來

ル)ヲ満足スル(1)ノ解が唯一ツ存在スル。(勿論ソレヲ証明スル=ハ存在定理及ビ単独條件ヲ使フノデアアル)、ソレヲ $y = \varphi(t, C)$ ト書クコト=シヨウ。又ハ $t+C$ ト(4')=依ツテ結バレテキレカラ t, C ノ函数 $y = \varphi(t, C)$ ヲ t, C ノ函数ト考ヘルコトモ出来ル。依ツテ(1)ノ一般解ハ $y = \varphi(t, z)$ ト表ハスコトが出来ル。此ノマツ=定義サレタ t, z ノ函数 $\varphi(t, z)$ が(2)ナル形=漸近的=展開サレルノデアアル。ソレデアアルカラ e^t, z が(或ル條件=従ツテ) $0 =$ 近ヅクトキ勝手ナ正ノ整数 $N =$ 對シテ

$$(8) \quad \varphi(t, z) = z \sum_{j, k} p_{j, k} e^{j t} z^k = z O(|e^{N t}| + |z|^N)$$

トナルコトヲ証明スルノデアアル。俾シ $\sum_{j, k} N-1$ ハ $j+k \leq N-1$ デアルマツナ (j, k) = 關スル和ヲ表ハス。尤モコノ右辺ハ $M, M' (\leq N)$ が N ト共=限りナク増加スル數ナラバ

$$z O(|e^{M t}| + |z|^{M'})$$

ヲ置換ヘテモヨイ。 N ハ勝手ナ正ノ整数デアアルカラ結局同ジコト=ナル、ソレデアアルカラ証明ヲ行フ=當ツテハ計算が都合ヨク運バマツ = M, M' ヲ取レノデアアル。

3. 級數(2)ハ一般=收斂デハナイカラ e^t, z が勝手ナ路=沿ツテ $0 =$ 近ヅイタノデハ(8)ヲ得ルトハ限ラナイ。(8)が成立スルタメ=ハ e^t, z ハ或ル條件=従ツテ $0 =$ 近ヅクノデナケレバナラナイ。此ノ條件がドンナモノデアアル

カハ問題ヲ解イテ行ケバ自然=明ラカトナツテ來ルワケデア
 ルガ、コレヲ詳シク論ジテ置ケバ (1)ノ右辺ガ (0,0)ヲ正
 則ト場合 (即チ (1)ノ右辺ガ収斂級數ノ場合、簡單= (1)ノ
 右辺ヲ級數ヲ書イテ了ツタカ、嚴密=云フナラバ (1)ノ右辺
 ヲ $f(x, y)$ ト書キ, $f(x, y)$ ガ漸近的= $\sum a_{j,k} x^j y^k$
 ナル形=展開サレルト言フベキデアツタ) =ハ $g(t, z)$ ヲ
 e^t ノ冪ヲ整頓スルト収斂=ナル。ソレカラ $x=0$ ガ (1)ノ
 解ノ通常超越点ナルコトガ分ルノデアアル。

4. (8)ヲ得ルタ $x = e^t$, z ガ 0 =近ヅクトキ従フベ
 キ條件ハ暫ク措イテ, キマツタ C ノ値=對シテ (1)ノ解
 $y = \varphi(t, C)$ ヲキメル條件トハ何デアアルカ、コレカラ片ヲ
 ツケテ行カウ。

C =ハキマツタ値ヲ與ヘ t ガケテ變數ト考ヘル。各ハ
 (4')=ヨツテ定義サレル t ノ函数デアアルカラ (6)=注意ス
 レバ

$$\lim_{t \rightarrow \infty} z t^{\frac{1}{n}} = (-na)^{-\frac{1}{n}} \quad (|\arg t - \pi| < \frac{\pi}{2})$$

トナル、 $e^t \rightarrow 0$ トナル場合ヲ考ヘテキルノデアアルカラ
 $|\arg t - \pi| < \frac{\pi}{2}$ ナル假定ヲ設ケテモ何等差支ヘナイノデア
 アル。ソレデアアルカラ

$$(8') \quad \varphi(t, z) - z \sum_{j,k} p_{j,k} e^{jt} z^k = o(|e^{Mt}| + |z|^{M'})$$

(8)ノ代リ=コレヲ取ツテヨイコトハ既=注意シタ)ガ成立
 スルモノトスレバ

$$\Phi(t, C) - \sum_{j, k} \sum_{N-1} p_{j, k} e^{j t} \alpha^k = O\left(t^{-\frac{1+M'}{n}}\right)$$

ヲ得ル。勿論 各ハ (4') = 依ツテ定義サレル t ノ函数デアアル。
 $\Phi(t, C)$ ヲキメル條件トハコレデアアル。故 =

$$u = y - \sum_{j, k} \sum_{N-1} p_{j, k} e^{j t} \alpha^k$$

ト置イテ $u =$ 関スル方程式ヲ作り、コレニ對シテ
 $u = O\left(t^{-\frac{1+M'}{n}}\right)$ ヲ満足スル解ガ唯一ツ存在スルコトヲ
 証明スレバヨイノデアアル。併シ $\varphi(t, \alpha)$ ハ各ヲ因子ニ含ム
 筈ナノデアアルカラ

$$(9) \quad y = \sum_{j, k} \sum_{N-1} p_{j, k} e^{j t} \alpha^k + u$$

ト置イテ方ガ後ノ都合ガヨイ。故 = コノ置換 = 依ツテ得ラレ
 ル $u =$ 関スル方程式

$$(10) \quad \frac{du}{dt} = g(t, u, C)$$

ガ $u = O\left(t^{-\frac{M'}{n}}\right)$ ヲ満足スル解ヲ唯一ツ持ツコトヲ証明
 シ、ソレニ對應スル (1) ノ解ヲ $y = \Phi(t, C)$ トスルコトニ
 ナル。コレカラ $y = \varphi(t, \alpha)$ ガ定義サレル。

5. $u = O\left(t^{-\frac{M'}{n}}\right)$ ヲ満足スル (10) ノ唯一ツノ解ガ

$$u = \frac{1}{\alpha} \left\{ \varphi(t, \alpha) - \sum_{j, k} \sum_{N-1} p_{j, k} e^{j t} \alpha^k \right\}$$

= 依ツテ與ヘラレル。各ハ (4') = ヨツテ與ヘラレル函数デアアル。
 コレヲ t, C ノ函数ト考ヘテ $t =$ 関シテ微分出來ルコ

トハ分リ切ツテキルガ、 C = 関シテ微分出来ルコトヲ証明ス
 ルハ補助変数 C ヲ含ム微分方程式 (10) = 對シテ補助変
 数ヲ含ム微分方程式ノ解ノソノ補助変数 = 関スル微分可能性
 = 関スル定理ヲ使ハバヨイ。コノヤウ = シテ $\varphi(t, C)$ ノ
 C = 関スル微分可能性ヲ得ル。 C ヲ複素変数ト考ヘレコト
 ガ出来ル場合 = ハ $\varphi(t, C)$ ノ C = 関スル微分可能性ハ
 即チ C = 関スル正則性 = 他ナラナイ。 C ト z トノ關係ハ
 (4') デアルカラ $\varphi(t, C)$ ノ C = 関スル微分可能性カラ
 $\varphi(t, z)$ ノ z = 関スル微分可能性ヲ得ル。 C ヲ複素変
 数ト考ヘラレル場合 = ハ z = 複素変数ト考ヘラレルカラ
 $\varphi(t, z)$ ノ z = 関スル正則性ヲ得ル。

以上ヲ以テ微分方程式 (1) ヲ研究スル方針ノ大略ヲ述ベ
 タ積リテアル、(1) ノ右辺 = 関スル假定ガ (1) ノ解
 $y = \varphi(t, z) =$ 如何 = 影響スルカ = ツイテハ次回デ述ベル
 コトトシヨウ。